

新設校で使用する食器及び中学校の給食方式について

1 食器について

3月開催の第3回学校教育委員会において、現在、市内の小学校で使用している「PEN樹脂製食器」に関する資料を提示し、各学校のPTAに、PEN樹脂製食器及び強化磁器食器を参考にして、比較検討していただきました。

その結果、4校とも「PEN樹脂製食器の方が望ましい」との意見であったため、新設校では、**PEN樹脂製食器（飯椀、汁椀、深皿の3種類）**による給食を提供することとします。

なお、中学校で使用する食器の大きさ等については、今後検討します。



【PEN樹脂製食器】

2 中学校給食の調理方式について

新設校では、全児童生徒の食数に対応できる給食室を整備していますので、**「自校方式」を採用**します。

3 中学校給食の献立について

小中連携校である照葉小中学校同様、**小学校の献立による給食の提供**を行います。

提供する量は、市の定めた基準に基づいて算定されます。

① 子ども達にとっての使いやすさ

- ・ PEN樹脂製食器は重さが40人で12kgと比較的軽量である。一方で強化磁器食器は重さが27kgとPEN樹脂製食器のおよそ2.25倍もあり、子ども達の運搬や配膳の作業に労力を伴う。
- ・ PEN樹脂製食器は平成21年度から市内140の小学校で使用しているが、破損がほとんど生じず、取扱が容易である。(年間で全校を通じ10個程度の破損) 強化磁器食器については、食器の材料にアルミナ(酸化アルミニウム)を配合することにより、軽量化を図りながら強度を高めているものの、年間で10%程度の食器が破損している。また、破損した破片が鋭利となるなど、子ども達による取扱には注意を要する。

- PEN樹脂製食器は重さが強化磁器食器の半分以下で、比較的軽量である。
- PEN樹脂製食器は割れや掛けがほとんど生じず、取扱が安全である。

② 子ども達にとっての安全・安心

- ・ 平成13年にPEN樹脂製食器発売。
- ・ 政令指定都市のうち、計8市で最長10年程度の使用実績をもつ。

樹脂製食器については、各樹脂素材によりそれぞれ特性があるが、PEN樹脂製食器を選定するにあたっては、子どもたちにとっての安全・安心を重視した。PEN樹脂食器の特長は下記のとおりとなっている。

特長1. 食器の原料に環境ホルモンや発がん性のある有害物質を使用していない。

特長2. 食器の強化等に使用される添加剤を一切使用していない。

特長3. 食器の表面に塗装を施していないため、塗料の溶出や剥がれがない。

特長4. 厚生労働省登録検査機関などによる客観的な評価において全く問題がない。

③ 本市小学校への導入後の状況

- ・ 熱いものでも持って食べることができる。
- ・ 見た目には強化磁器食器には劣るが、家庭の食器に近く、子どもたちにも好評である。
- ・ 見た目に美味しく感じ、食欲が進み、残滓率の低下に貢献している。

※ PEN樹脂製食器の、安全性が必要とされる容器への使用用途
食品分野では、加熱殺菌できることから、ジャムやゼリーなどの容器に使用されている。
医療分野では全身麻酔薬の容器として使用されている。
海外においては、デンマークやノルウェー、ドイツやブラジルなどでビールや炭酸水用に加熱洗浄して繰り返し使えるリターナブル容器として使用されている。

	現在		統合校（小5時間の日）		統合校（小6時間の日）		統合校（小午前中5時間の日）	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
8:15								
8:20	朝の会	朝の会	勤務開始…8:15	勤務開始…8:15	勤務開始…8:15	勤務開始…8:15	勤務開始…8:15	勤務開始…8:15
8:30	朝の清掃	朝の読書	朝の会	朝の清掃	朝の会	朝の清掃	朝の会	朝の会
8:45	朝の読書	朝の清掃	自学（朝の読書）	朝の清掃	自学（朝の読書）	朝の清掃	自学（朝の読書）	朝の会
8:50		準備・移動						1校時
8:55								8:30～9:15
9:00	1校時	1校時	1校時	1校時	1校時	1校時	1校時	8:45～9:35
9:05								
9:40								
9:45	2校時	2校時	2校時	2校時	2校時	2校時	2校時	2校時
9:55		準備・移動						
10:05								
10:30								
10:35	中休み		中休み		中休み		中休み	
10:45								
10:55	3校時	3校時	3校時	3校時	3校時	3校時	3校時	3校時
11:30								
11:35	4校時	4校時	4校時	4校時	4校時	4校時	4校時	4校時
11:55								
12:05	給食	給食	給食	給食	給食	給食	給食	給食
12:20								
12:25								
12:55								
13:05	昼休み	給食	給食	給食	給食	給食	給食	給食
13:25								
13:50								
13:55	パワーアップ		パワーアップ	パワーアップ	パワーアップ	パワーアップ	パワーアップ	パワーアップ
14:15								
15:00	5校時	5校時	5校時	5校時	5校時	5校時	5校時	5校時
15:10	帰りの会	準備・移動	帰りの会	準備・移動	準備・移動	準備・移動	準備・移動	準備・移動
15:20								
15:45	6校時	6校時	6校時	6校時	6校時	6校時	6校時	6校時
16:00	帰りの会	帰りの会	帰りの会	帰りの会	帰りの会	帰りの会	帰りの会	帰りの会
16:10								
16:15	下校 16:10	下校 16:10	下校 16:05	下校 16:15	下校 16:05	下校 16:15	下校 16:15	下校 16:15
16:45	勤務終了…16:45	勤務終了…16:45	勤務終了…16:45	勤務終了…16:45	勤務終了…16:45	勤務終了…16:45	勤務終了…16:45	勤務終了…16:45
17:00								

★ 勤務開始 8:15

★ 始業 8:20

- ・朝の会→清掃→朝読書を始める
- ・朝の挨拶をしてから全て始める
- ・朝読書の後に、静かに学習に入る
- ・金曜日の掃除だけは午後

★ 金曜時制の考え方

- ・中学校は会議時間確保のため、金曜日、朝の時間をカットして時制をあげる。(問題点)
- ◎給食時間が早すぎる
- ◎この日だけ業間10分も変

- ・小学校は午前中5時間を週1日設け、授業時数の確保に努める。また、週1回6時間授業となる2年生への対応を図る。

★ 節目時刻を合わせる(赤ライン)

- ・朝、1、3、昼休み、5校時の始まり

★ 時刻を合わせるために、中学生の業間移動時間は5分とする。

★ 授業時間 45分間

- ・小学校 45分間
- ・中学校 50分間

★ 給食時間 45分間

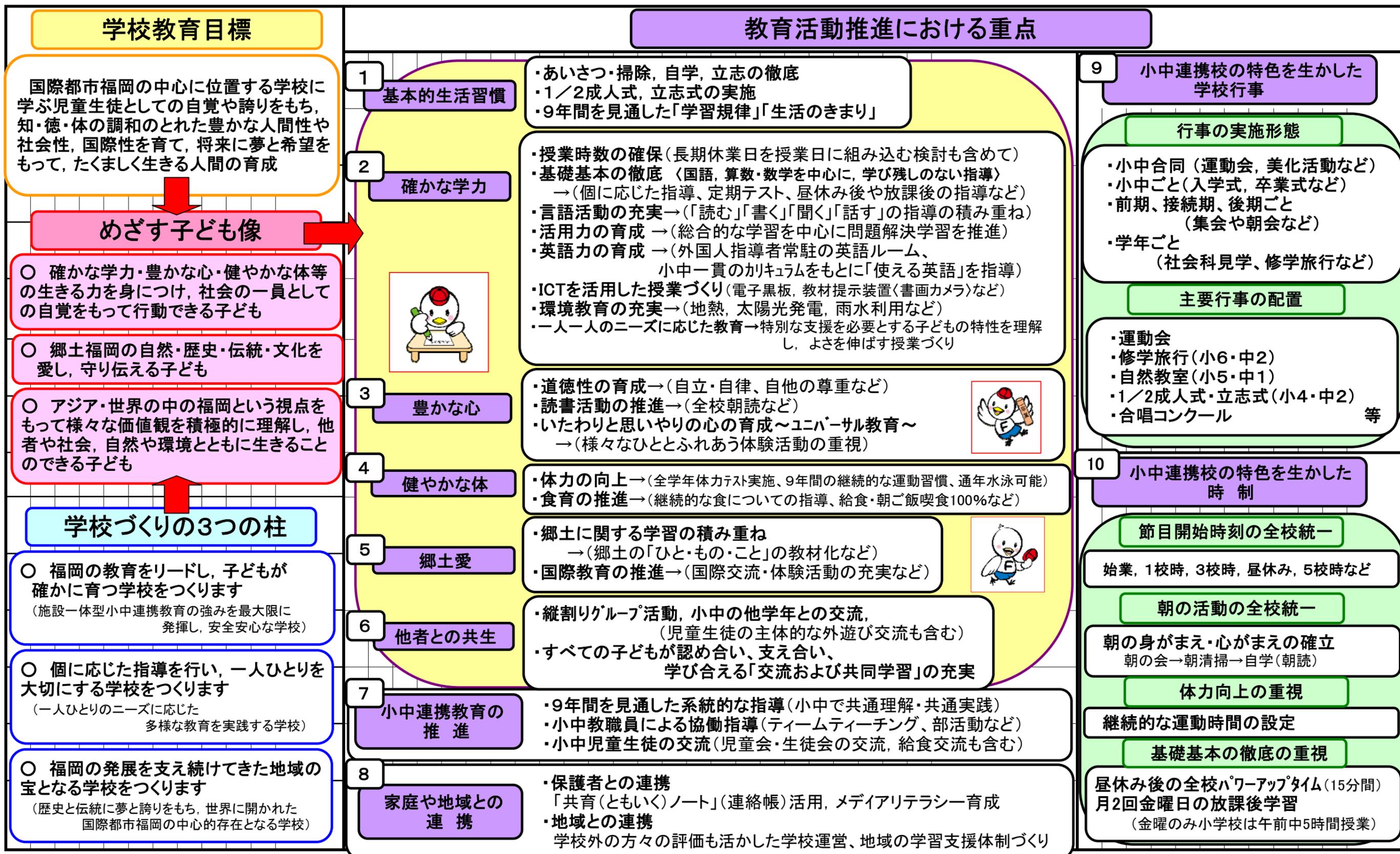
- ・小学校 45分間
- ・中学校 35分間

★ 基礎基本定着のための帯タイムを設ける。

- ・基本 15分間
- ・金曜は小学校10分屋読

舞鶴中ブロック統合校小中連携校の教育目標について H23.3.25

～ めざす③つの子ども像と教育活動⑩の重点 ～



こんな事ができる学校づくり!!

教育課程編成方針（概要版）

学校教育目標

国際都市福岡の中心に位置する学校に学ぶ児童生徒としての自覚や誇りを持ち、知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性や社会性、国際性を育て、将来に夢と希望をもって、たくましく生きる 人間の育成



めざす児童生徒像

○ 確かな学力・豊かな心・健やかな体等の生きる力を身に付け、社会の一員としての自覚をもって行動できる児童生徒

○ 郷土福岡の自然・歴史・伝統・文化を愛し、守り伝える児童生徒

○ アジア・世界の中の福岡という視点をもって様々な価値観を積極的に理解し、他者や社会、自然や環境とともに生きることのできる児童生徒

学校づくりの3本柱

福岡の教育をリードし、児童生徒が**確かに育つ学校づくり**

★施設一体型の小中連携校の強みを最大限に発揮させ、かつ安全・安心な学校

個に応じた指導を行い、一人一人を**大切に**する学校づくり

★一人一人のニーズに応える多様な教育実践をする学校

福岡の発展を支える**地域の宝**となる学校づくり

★歴史と伝統に夢と誇りを持ち、世界に開かれた国際都市福岡の中心的存在となる学校

小・中学校の交流・共育を生み出す**連携時制の工夫**

- ・小中教職員の協働活動を生み出す時制
- ・朝、昼休み、学習時間3校時/日
- ※小学校と中学校との合同学習や児童生徒間の基礎基本を高める交流学习

小学生の学習、中学生の学習となる交流学习や、児童生徒の共通の課題解決学習など、学習者としての関わりを生み出す時制を工夫検討しています。

基礎基本の徹底を進める!

国語、算数・数学を中心とした9ヵ年系統指導

- ・児童生徒の**実態分析**から生まれる**指導計画**
- ・興味・関心を活かした“学び”を深める自己解決型学習→**習熟度別学習**
- ・**ICT**を活用した学習活動の推進

わかった!できた!
内からの学習心呼び起こす学習活動を総合的な学習の時間などで応用・発展的に行います。

英語教育のマルチスペースも準備していますよ。

生きて働く知識と理解 **「実践的活用力」を育てる学習!**

- ・自分の課題を持ち寄り、個別、小グループ等の学び合い。解決過程の体験、解決による達成感と学習意欲づくり
- ・自主的な学習づくりの指導と推進

異年齢集団との関わりを通じた**社会性育成**や自己理解・他者理解 **縦割り集団活動の充実**

- ・異年齢との関わりで自己の立ち位置や役割を考える。
- ・ボランティア活動や協働清掃、交流

家庭学習の支援のために新校舎には、学習ルームを準備しました。

基礎基本を支える **「言語活動」の徹底!**

- ・「読む」「書く」「聞く」「話す」の**学びの基本**を一時間の中に**パターン化**
- ・書いてまとめ、考え、伝え合いの中から表現の工夫、自らの課題
- ・**読書**による**読解力・表現力向上**

ユニバーサルデザインに基づく**授業づくり**

- ・特別な支援を必要とする児童生徒の特性を理解し、良さを伸ばす授業づくり
- ・全教室で行う個を活かす授業

国際社会を生き抜く **コミュニケーション力**を育てる **「英語教育」の充実と徹底**

- ・小学校1年生から始める英語教育。
- ・国際教育としての英語に親しむ時期
- ・身振り・表情等を交えたコミュニケーション力育成

人にやさしい **ユニバーサル教育**の推進

- ・様々なひととの共生社会を推進
- ・**体験活動**を通して、障がいや個々のちがいを尊重し、人権感覚と実践力豊かな児童生徒の育成

リーダーシップやフォロワーシップの中で、思いやりや他者理解を深めます。

自分にあったペースや内容の学習補充を行います。今日できることは今日中に!

自学の意識と態度を育てる環境 **放課後学習教室**

- ・家庭学習を補い、児童生徒の学習意欲と学習習慣を育てる**学習室を整備**
- ・**教員**に加え、**地域・保護者**や**学生サポーター**等の協力を依頼

義務教育年限9ヵ年連続した **個別指導の充実**

- ・国語、算数・数学での基礎基本の徹底指導→評価→課題把握→習熟度別指導(授業・パワーアップ・放課後学習:カルテ化による継続一貫指導の実現)

自学の意識と態度を育てる環境 **全校パワーアップタイム(帯タイム)**

- 国語、算数・数学の教科学習から自分の課題に気付き、**課題解決の自己選択学習**の展開

食に学ぶ!! **食育教育**で家庭連携

- ・PTAの早寝・早起き・朝ごはんを**共有**推進
- ・小中ともに**自校方式**による給食

“指導マニュアル（作成中）”を基盤とした 継続性のある 小中連携教育システム

■算数・数学科の教科目標 学習指導要領から

小学校「算数」

算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を見に付け、日常の事象について見通しを持ち筋道立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。

中学校「数学」

数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。

■算数・数学科の指導上の課題……当該中学校ブロック実態分析から

□ 当該中学校ブロックの児童生徒は、算数、数学における解法による心地よさ等を実感し、算数・数学への一定程度の関心意欲を有している。平成22年度の全国学力実態調査においても、当該中学校ブロック関係児童生徒が、基礎的・基本的な知識や技能を習得していることがわかる。

■ その一方、「数学的な見方や考え方」、「数量や図形に関する表現・処理」においては、若干の課題を呈している。この評価観点、主として知識や技能の活用部門である。

児童生徒が主体的に、問題の分析を行い、数理的考え方による解法方法の模索、問題解法における課題の把握と、課題解決の見通しを持った算数的、数学的活動のよさを実感しながら進んで生活や学習に活用しようとする態度づくりに関係している。この過程では、問題文章の読み取りや、図やグラフによる整理、情報交換等の「言語活動」の必要性が注視される。

◆小中連携に関する教育課程編成上のコンセプト

- ・ 系統性の強い教科なので、小学校での基礎的・基本的な学習内容の定着(例えば、かけ算九九)が必要である。
- ・ 算数・数学的な処理の良さを体感させる、場面を立式化する段階的な指導を工夫する必要がある。
- ・ 学習内容が重複する単元や、継続して学習する単元は、特に小学校ではスパイラル的な学習過程を工夫し、各節における評価により、定着度把握を徹底する必要がある。
- ・ 小学校4年生、中学校1年生、中学校3年生における評価テストを積み重ね、形成的評価資料の充実を図る。

■算数・数学科の指導重点目標……当該中学校ブロック実態分析から

■ 基礎的・基本的な学習内容の定着のために

習熟の程度に応じて少人数授業を取り入れ、単元ごとに診断的評価を行い、つまづきの早期発見に努める。その結果をもとに個に応じた指導を行い、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。さらに、各単元毎

に発展的な学習を採り入れ、算数・数学の学習への興味・関心をさらに高める指導を工夫する。

<小学校>・「数と計算」「数量関係」において、文章問題把握のための立式づくりをパターン化させる。

- ・ 「量と測定」において、量を視覚的、触感的にとらえる工夫を環境としても整備する。
- ・ 「図形」において、立体的把握を高めるICT機器の活用を進める。

<中学校>・ 小学校「数と計算」の系統として事象の式化や数量の変化の関係、比例・反比例、関数の理解を深める既習活動の活用を図る数学的活動の工夫を行う。

- ・ 数学的な表現・処理のよさを、情報交換や表現の場を充実させることで体感させる。
- ・ 数学的な活動の過程を整理し、成果やつまづきを共有する場を設定し、協働化を推進する。

■ 小中9ヵ年を通して育てる力について

(課題学習の工夫) 児童生徒を学習の主体とするため、個々人の思考、判断、表現等を必要とする学習活動を設定する事が重要である。個々人の課題に応じた個別化学習を応用発展学習として各学年の指導計画に系統的に設定することが必要である。

■小中連携に関する具体的な取組

◆小中9ヵ年を通じた個別指導の充実

- ・ 施設一体型小中連携校の特色を生かした児童生徒学習状況追跡カード(個人カルテ)を作成する。
※ 児童生徒の学習状況(基礎基本事項の定着状況、学習のつまづき傾向、学習スタイル、学習スピード etc.)を記録し、担任、副担任、少人数指導等の関係職員が児童生徒の状況把握と実態共有を行い、適時かつ適切効率的な学習活動を行う。
- ・ 小学校1～4年生は学級担任指導、小学校5・6年、中学校1年は一部教科専科制、中学校2・3年は教科担任制を採用し、複数の教職員の関わりによる多面的な児童生徒理解を進める。
- ・ 担当教師に加え少人数指導教員を、習熟度向上を図る学年単元に重点配置し、学力パワーアップタイムや放課後学習などと連携した基礎基本の学習内容の徹底習得を図る。
- ・ 各節の評価結果を整理するとともに、評価結果の改善ポイントを事後の指導内容に反映させる「評価指導連携タイム」を用意し、個人カルテに評価指導の関連的記録を行う。

◆小中連携のグループダイナミズムを活かした指導方法の工夫

- ・ 小中の異学年交流学習を実施し、児童生徒間の関わりによる課題解決学習を行う。
※ 「文字と式」を6月に学習した中学1年生を協働学習者として、12月に「□の式」を学習する小学3年生の習熟段階に参加させることで、同者の学習内容の進化を図る。 etc.
- ・ 縦割りグループ活動を学習活動に活かす。
※ 日常活動として活用したい縦割りグループを用い、小中合同の「総合的な学習の時間」における「生活の中に見付ける算数・数学課題学習」などと題した協働交流学習を設定し、児童生徒間の教授関係を活かす。 etc.

■算数・数学科における「言語活動」の充実

□「言語活動」の全教科領域における展開

- ※ 知的な理解にとどまらない実践的な活用力としての知識や技能が重視される。当該関係校においても平成22年度学力実態調査から、活用の面から「国語への関心・意欲・態度」や「言語についての知識・理解・技能」に課題が見られる。
- ※ 国語科に限らず、全教科領域の中で、「読み」「書き」「聞く」「話す」の指導を意識的、継続的に展開する必要がある。
- ※ 算数・数学における国語的視点では、数学の学習は単に問題を解いて答を求めるということだけでなく、「自ら調べ判断する力」や「粘り強く考え続け、考えたことを相手にわかるように説明(記述)できる論理的な思考力」が必要である。その際、「読み」「書き」「聞く」「話す」活動を通して、それらの能力をはぐくむ必要がある。

□「言語活動」の具体例

- ・ 基礎的基本的な内容を習得する場面で、「問題を読み」内容分類や解法の見通しを「書いてまとめ」、協働学習の共有化のために「読んで伝え」、「聞いて考える」場面を毎時間、継続指導する。
- ・ 「課題学習」設定と連動した、自分なりの根拠立てた考え方や推論を「書いて」まとめたり、「話しあい」で表現したりする活動を設定する。……「学ぶ場面」に、学び合いや交流学習の工夫を行う。
- ・ 推論を基にした、課題の解法過程を、書いてまとめ、学習者相互の課題を共有する場をいかし、自己有用感を体感させ、数学的処理のおもしろさを実感させ意欲の向上を図る。 etc.

■自学(家庭学習 etc.)につながる教科指導

児童生徒個々に自学の学習力を付けるために、9ヵ年を通して発達段階に応じて以下のような取組を行う。

- ◆ (小学校1～4年) ……学習習慣の定着のために、宿題を基にした基礎的・基本的内容の定着を図る。
【内容】漢字ドリル・計算ドリル等の習熟度向上、日記や作文等、思考・判断・表現を伴うもの。
 - ◆ (小学校5・6年、中学校1年) ……自学のための学習準備や反省を書いてまとめたり、調べる態度を養う。
【内容】上記内容に加え、予習・復習等のノートまとめや発展・応用学習等、表現処理を伴うもの。
 - ◆ (中学校2・3年) ……個々人の学習課題を明らかにし、自己課題解決型学習に望む態度と実践力を育てる。
【内容】予習・復習、各教科発展・応用問題への挑戦、弱点内容の自己強化学習 etc.
- ★放課後学習タイムと場の準備……月2回金曜日実施 ★全校パワーアップタイム教材の利用

	小学1年 学年目標	小学2年 学年目標	小学3年 学年目標	小学4年 学年目標	小学5年 学年目標	小学6年 学年目標	中学1年 学年目標	中学2年 学年目標	中学3年 学年目標
算数的活動	ア具体物を数える活動 イ計算の意味や仕方を表す活動 ウ量の大きさを比べる活動 エ形を見付けたり、創ったりする活動 オ場面を式に表す活動	ア整数が使われている場面を見付ける活動 イ乗法九九表から決まりを見付ける活動 ウ量の大きさの見当を付ける活動 エ図形をかいたり、作ったり、敷き詰めたりする活動 オ図や式に表し説明する活動	ア計算の仕方を考え説明する活動 イ小数や分数の大きさを比べる活動 ウ単位の関係を探る活動 エ正三角形などを作図する活動 オ資料や分類整理し表を用いて表す活動	ア計算の結果の見積りもりを判断する活動 イ面積の求め方を考え説明する活動 ウ面積を測る活動 エ平行四辺形などを敷き詰め、図形の性質を探る活動 オ身の回りの数量の関係を調べる活動	ア計算の仕方を考え説明する活動 イ面積の求め方を考え説明する活動 ウ合同な図形をかいたり、作ったりする活動 エ図形の性質を帰納的に説明したり、演繹的に説明したりする活動 オ目的に応じて表やグラフを選び活用する活動	ア計算の仕方を考え説明する活動 イ単位の関係を調べる活動 ウ縮図や拡大図、対称な図形を見付ける活動 エ比例の関係をj用いて問題を解決する活動	各領域の学習やそれらを相互に関連付けた学習において、次のような数学的活動に取り組む機会を設けること	ア既習の数学を基にして、数や図形の性質などを見いだす活動 イ日常生活で数学を利用する活動 ウ数学的な表現を用いて、自分なりに説明し伝え合う活動	ア既習の数学を基にして、数や図形の性質などを見いだし、発展させる活動 イ日常生活や社会で数学を利用する活動 ウ数学的な表現を用いて、根拠を明らかにし筋道立てて説明し伝え合う活動
	・数の意味や表し方についての理解 ・加法及び減法の意味理解 ・計算の仕方を考え使うことができる	・数についての感覚を豊かにする。 ・数の意味や表し方についての理解 ・加法及び減法の意味理解 ・計算の仕方を考え使うことができる	・加法及び減法を適切に用いることができる。 ・乗法についての理解を深め、適切に用いることができるようにする。 ・除法の意味について理解し、その計算の仕方を考え用いることができる。 ・小数及び分数の意味や表し方について理解できるようにする。	・除法についての理解を深め、適切に用いる。 ・小数及び分数の意味や表し方について理解を深め、小数及び分数についての加法や減法の意味を理解し、それらの計算の仕方を考え、用いる。 ・概数について理解し、目的に応じて用いる。	・整数の性質についての理解を深める。 ・小数の乗法及び除法や分数の加法及び減法の意味について理解を深め、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。	・分数の乗法及び除法の意味についての理解を深める。それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。	・数を正の数と負の数で拡張し、数の概念について理解を深める。 ・文字を用いることや方程式の必要性と意味を理解するとともに、数量の関係や法則などを一般的にかつ簡潔に表現して処理したり、一元一次方程式を用いたりする能力を培う。	・文字を用いた式について、目的に応じて計算したり変形したりする能力を養うとともに、連立二元一次方程式について理科史用いる能力を培う。	・数の平方根について理解し、数の概念についての理解を深める。 ・目的に応じて計算したり式を変形したりする能力を伸ばすとともに、二次方程式について理解し用いる能力を培う。
A数と計算	整数の意味と表し方 2位数、簡単な3位数	整数などの表し方 3位数、4位数、1万、簡単な分数1/2	整数の表し方 ・万の単位、1億 整数の加・減 3位数や4位数の加・減	整数の表し方 ・億、兆の単位 およその数概数、四捨五入、見積り	整数の性質 偶数と奇数、約数と倍数 整数と小数の記数法	正の数・負の数 正負の数の必要性、四則計算の意味 正負の数四則計算、用いること	文字を用いた式 文字活用の必要性、乗除法の表し方 一次式の加・減計算、表すこと	文字を用いた式の四則計算 整式の加減及び単項式の乗除 文字を用いて表す、目的に応じた変形	平方根 平方根の必要性と意味、平方根を含む式 用いること
	整数の加・減 1位数の加・減、簡単な2位数の加・減	整数の加・減 2位数の加・減、簡単な3位数の加・減	整数の乗法 2位数や3位数の乗法 3位数×2位数 整数の除法 1位数による簡単な除法	整数の四則計算の定着・活用 整数の除法 2位数等による除法	小数の計算 1/10、1/100の乗・除 分数の計算 同分母分数の加・減	小数の計算 1/10、1/100の乗・除 分数の計算 異分母分数の加・減、乗除	一元一次方程式 方程式の必要性、等式の性質と解き方 活用すること	連立二元二次方程式 方程式の必要性と意味及び解、 連立方程式と解、活用すること	二次方程式 方程式の必要性と意味及び解、 因数分解や平方完成で解く、活用とは
B量と測定	具体物を用いた活動などを通して、量とその測定についての理解の基礎となる経験を重ねる 量の大きさについての感覚を豊かにする。	具体物を用いた活動などを通して、長さや体積などの単位と測定について理解できるようにする。 量の大きさについての感覚を豊かにする。	・長さ、重さ及び時間の単位と測定について理解できるようにする。	・面積の単位と測定について理解し、図形の面積を求めることができる。 ・角の大きさの単位と測定について理解できる。	・三角形や平行四辺形などの面積及び直方体などの体積を求めることができるようにする。 ・速さについて理解し、求めることができるようにする。	・目的に応じて資料を収集して整理し、その資料の傾向を読み取る能力を培う。	・不確かな事象を調べることを通じて、確率について理解し用いる能力を培う。	・母集団から標本を取り出し、その傾向を調べることで、母集団の傾向を読み取る能力を培う。	
	量の大きさの比較 長さ、面積、体積の大きさ比較	量の単位と測定 長さの単位mm、cm、m 体積の単位ml、dl、l	色々な単位と測定 長さKm 重さg、Kg、t	面積 単位(cm ² 、m ² 、km ² 、a、ha) 正方形、長方形の面積の求め方	面積 三角形、平行四辺形の面積 ひし形、台形の面積の求め方 体積 体積の単位と測定 立方体、直方体の体積の求め方 測定値の平均 単位量当たりの大きさ 人口密度	概形 およその面積 面積 円の面積の求め方 体積 角柱、円柱の体積の求め方 速さ 速さの意味と表し方、求め方	資料の散らばりと代表値 誤差や近似値、 $a \times 10^b$ の形表現 ヒストグラムや代表値の必要性と意味 用いること	確率 確率の必要性と意味 確率の求め方 用いること	標本調査 標本調査の必要性と意味 標本調査を行うこと
C図形	具体物を用いた活動などを通して、図形についての理解の基礎となる経験を重ねる 図形についての感覚を豊かにする。	具体物を用いた活動などを通して、三角形や四角形などの図形について理解できるようにする。 図形についての感覚を豊かにする。	・図形を構成する要素に着目して、二等辺三角形や正三角形などの図形について理解できるようにする。	・図形を構成要素及びそれらの位置関係に着目して考察し、平行四辺形やひし形などの平面図形及び直方体などの立体図形について理解できるようにする。	・平面図形についての理解を深めるとともに、角柱などの立体図形について理解できるようにする。 ・縮図や拡大図、対称な図形について理解し、図形についての理解を深める。	・平面図形や空間図形についての観察、操作や実験などの活動を通して、図形に対する直感的な見方や考え方を深めるとともに、論理的に考察し表現する能力を培う。	・基本的な平面図形の性質について、観察、操作や実験などの活動を通して理解を深めるとともに、図形の性質の考察における数学的な推論の必要性と意味及びその方法を理解し、論理的に考察し表現する能力を養う。	・図形の相似、円周角と中心角の関係や三平方の定理について、観察、操作や実験などの活動を通して理解し、それらを図形の性質の考察や計量に用いる能力を伸ばすとともに、図形について見通しをもって論理的に考察し表現する能力を伸ばす。	
	身の回りにあるものの形の観察 平面図形・立体図形	三角形、四角形 正方形、長方形、直角三角形 箱の形	二等辺三角形、正三角形 角 円、球	直線の平行や垂直の関係 平行四辺形、ひし形、台形 立方体、直方体 ものの位置の表し方	多角形や正多角形 図形の合同(一部) 図形の性質 円周率 角柱、円柱	縮図や拡大図 対称な図形	平面図形 作図方法と活用 図形の移動 空間図形 直線・平面の位置関係 空間図形(投影図) 図形の計量 球の表面積・体積	基本的な平面図形と平行線性質 平行線や角の性質 多角形の角の性質 図形の合同 平面図形の合同、三角形の合同条件 証明の必要性 意味とその方法 三角形や平行四辺形の基本的性質	図形の相似 平面図形の相似、三角形の相似条件 平行線と線分の比 相似な図形の相似比と面積比、体積比 活用すること 円周角と中心角 円周角と中心角の関係と証明 活用する 三平方の定理 定理とその証明 活用すること
D数量関係	具体物を用いた活動などを通して、数量やその関係を言葉、数、式、図形などに表したり読み取ったりすることができるようにする。	具体物を用いた活動などを通して、数量やその関係を言葉、数、式、表、グラフなどに表したり読み取ったりすることができるようにする。	・数量やその関係を言葉、数、式、図、表、グラフなどに表したり読み取ったりすることができるようにする。	・数量やその関係を言葉、数、式、図、表、グラフなどに表したり読み取ったりすることができるようにする。	・数量の関係を考察するとともに、百分率や円グラフなどを用いて資料の特徴を調べることができるようにする。 ・比や比例について理解し、数量の関係の考察に用いることができるようにする。 ・資料の散らばりを調べ統計的に考察することができるようにする。	・具体的な事象を調べることを通じて、一次関数について理解するとともに、関数関係を見いだし表現し考察する能力を培う。	・具体的な事象を調べることを通じて、一次関数について理解するとともに、関数関係を見いだし表現し考察する能力を培う。	・具体的な事象を調べることを通じて、関数 $y = ax^2$ について理解するとともに、関数関係を見いだし表現し考察する能力を伸ばす。	
	式による表現 加法や減法の場面を式に表す	式による表現 加法と減法の相互関係 乗法の場面を式に表す	式による表現 除法の場面を式に表す 式と図の関連づけ □などをを用いた式	式による表現 四則計算の式に表す 式と図の関連づけ □などをを用いた式 四則計算の性質 違って変わる二つの数量関係 数量の変化の様子を折れ線グラフで関係調べ 資料の分類整理 二つの観点の表、折れ線グラフ	比 比例と反比例 文字を用いた式(a、xなど) 資料の調べ方 資料の平均 度数分布 起り得る場合	比 比例、反比例 関数関係の意味、比例・反比例の意味 座標の意味、表・式・グラフ 用いる事	一次関数 事象と一次関数、その表・式・グラフ 二元一次方程式と関数、用いる事	関数 $y = ax^2$ 事象と関数 $y = ax^2$ 、その表・式・グラフ 用いる事、色々な事象と関数	

月	小学1	小学2	小学3	小学4	小学5	小学6	中学1	中学2	中学3	
4月	※1 なかまづくり 8	1 ひょうとグラフ 2 2 時ごとと時間 4 3 たし算のひっ算 9	1 かけ算 10 2 時ごとと時間のもとの方(余①) 3	1 大きい数のしくみ 7 5 折れ線グラフ 6 2 角の大きさ 1	1.整数と小数 6 ※2.直方体と立方体の体積 10	※1.円の面積 10 2.文字と式 4	正の数・負の数 4 ・正の数と負の数 3 ・加法と減法 3	式の計算(16) ・文字式の計算⑨ 9 ・文字式の利用 1	式の計算 8 ・式の展開 5 ・因数分解 5	
5月	2 なんばんめ 5 3 いくつと いくつ 6	4 ひき算のひっ算 11 ★ どんない計算になるのかな 2 5 長さのたんい 2	(余①) 4 ※3 わり算(余①) 12	3 わり算の筆算(1) 7	3.小数のかけ算(余①) 11	3.分数のかけ算 10 ★かたちであそぼう 1 4.分数のわり算(余①) 2	・乗法と除法 7 ・数の集合と四則計算 2	・文字式を利用する能力を伸ばそう 2 連立方程式 4 ・連立方程式 10	・素因数分解 2 平方根 3 ・平方根 6 ・平方根の計算 2 13	
6月	4 あわせていくつ、ふえといくつ 8 5 のこりはいくつ、ちがいはいくつ 9 6 10よりおおきいかず 1	6 3けたの数 12	4 円と球 9 5 たし算とひき算の筆算 11 6 暗算 2	4 垂直・平行と四角形 10	4 小数のわり算(余①) 15 ★ どんない計算になるのかな 1 5.合同な図形(余①) 3	★ どんない計算になるのかな 1 ※5.対称な図形 7	・正の数と負の数を使った魔方陣を考えよう 2 文字と式 7 ・文字と式 2 ・文字式の意味 2 ・1次式の計算 5 16	・連立方程式の利用 6 6	2次方程式 7 ・2次方程式 9 2次方程式の解の公式 9	
7月	7 なんじ なんじはん 5 8 はなはなんこさいかな おぼえているかな(余①) 1 2	(余①) 3 7 水のかさのたんい(余①) 9	考える力をのばそう 1 7 あまりのあるわり算(余①) 10 1学期のまとめ(余③) 3	考える力をのばそう(余①) 2 6 そろばん 4	(余⑤) 12	6.比と比の値(余①) 11	・等式 3 ・大小の関係を表す式 4 ・文字式を利用する能力を伸ばそう 2	・連立方程式を利用する能力を伸ばそう 2 1次関数 10 ・1次関数 5 8	・規則的に並んだ数の和を求めよう 2 関数 $y=a \times x^2$ 7 10 ・関数 $y=a \times x^2$ 10	
9月	9 どちらがながい 5 10 3つのかずのけいさん 5 11 どちらがおおい おぼえているかな 4 1 ※12 たしざん(余②) 3	8 計算のくふう 3 9 たし算とひき算のひっ算 13 10 三角形と四角形 3	8 大きい数のしくみ 10 かたちであそぼう 1 9 かけ算の筆算(1) 11	7 小数のしくみ 11 ※8 わり算の筆算(2) 7	6.偶数と奇数、倍数と約数 12 ※7.単位量あたりの大きさ 5	※7.拡大図と縮図 11 8.速さ 8	方程式 10 ・方程式 5 ・方程式の利用 5	・1次方程式と1次関数 6 3	・関数 $y=a \times x^2$ のグラフ 9 ・身の回りの関数について調べよう 2 円周角の定理(10) 2 ・円周角と中心角の関係 2 ・円周角の定理の逆 2 14	
10月	13 かたちあそび 12 3	11 分数 5 12 かけ算(1) 12	どんない計算になるのかな 1 10 大きい数のわり算 3 11 長いものの長さのはかり方 6 12 小数 1	かたちであそぼう 1 ※9 整理のしかた 4 10 計算のきまり 2	★かたちであそぼう 1 ★考える力をのばそう 1 8.分数と小数 8	9.角柱と円柱の体積 3 10.およその体積 4 ★考える力をのばそう 2	・比の性質の活用 2 ・身の回りのいろいろな事象の中から方程式をつくろう 3 比例と反比例 9 ・比例 15	・1次関数利用する能力を伸ばそう 2 図形の性質と合同 8 ・角と平行線 12	図形の相似(25) 8 ・相似な図形⑨ 7	
11月	おぼえているかな ※14 ひきざん(余③) 3 1 11	★ 九九ビンゴ 13 ※13 かけ算(2) 5	13 三角形 10 14 分数 3	11 面積のはかり方とあらわし方 10 考える力をのばそう(余①) 2	★算数の目で見てみよう 2 ※9.図形の角 8 10.分数のたし算とひき算 8	★算数の目で見てみよう 2 ※11.比例と反比例 15 12.資料の調べ方 2	・反比例 6 ・関数関係の意味 1 ・比例と反比例の利用 3 ・身の回りの事象について考えよう 2 平面図形 19 ・平面図形の観察 3 16	・三角形の合同 5 ・証明 8	・平行線と線分の比 2 ・相似な図形の面積比と体積比 5	
12月	どんなけいさんになるのかな(余②) 4 15 どちらがひろい(余③) 5	(余①) 17	15 □の式 9 考えるちからをのばそう 4 2学期のまとめ(余①) 1	12 分数 11 13 変わり方調べ(余①) 6	11.四角形と三角形の面積(余①) 17	★考える力をのばそう(余①) 3	・平面図形の作図 3 8	・鉛筆を回して多角形の内角の和を求めよう 2 三角形と四角形 3 ・三角形 5	・身の回りの相似について調べよう 2 三平方の定理(13) 5 ・三平方の定理 5 ・三平方の定理の利用 4 11	
1月	16 20よりおおきいかず(余③) 13	14 4けたの数(余③) 15	16 かけ算の筆算(余②) 14	14 がい数の表し方 9 15 小数のかけ算とわり算(余③) 5	※12.百分率とグラフ 15	※13.場合の数 7 ★かたちであそぼう 1 14.量の単位のしくみ(余②) 9	・図形の移動 4 ・線対称や点対称な模様をつくろう 2 空間図形 6 ・空間図形の観察 6 ・投影図 1 13	・平行四辺形 6 4	標本調査 4 ・標本調査 6 3年間の復習 3 ・数と式、関数、図形、確率 3	
2月	おぼえているかな 4 17 なんじなんぶん(余②) 1 ビルをつくろう 1 18 ずをつかてかえよう(余②) 8 19 かたちづくり 3 22	15 長いものの長さのたんい(余①) 10 16 たし算とひき算(余④) 9 17 はこの形 2	17 ぼうグラフと表(余①) 10 かたちであそぼう(余①) 2 18 重さのたんいとばかり方 6	どんない計算になるのかな(余①) 2 ※16 直方体と立方体(余②) 6	★考える力をのばそう(余①) 3 ★かたちであそぼう(余①) 2 ※13.正多角形と円周の長さ(余①) 11 14.分数のかけ算とわり算(余①) 8	★算数の目で見てみよう 2 ※算数卒業旅行 10 ※算数のまとめ(余②) 8	・図形の計量 8 ・球の表面積と体積 3 ・正多面体について調べよう 3 資料の活用 2 17	・平行四辺形になるだろうか 5 場合の数と確率 2 ・場合の数 6	・確率 6 ・実験して確かめる 3	・数と式、関数、図形、確率 17
3月	ばしよをあらわそう 2 けいさんピラミッド 1 1ねんせいのふくしゅう(余⑤) 7 達成度評価→習熟度別指導 12	★ 計算ピラミッド(余②) 4 ★ 2年生のふくしゅう(余②) 5 達成度評価→習熟度別指導 13	考える力をのばそう 1 19 そろばん 2 3年生のふくしゅう(余①) 5 三校テスト・2学期のまとめ(余②) 2 13	かたちであそぼう 7 算数おもしろ旅行(余②) 4 4年のふくしゅう(余①) 3 達成度評価→習熟度別指導 15	※15.角柱と円柱(余①) 7 ★算数の目で見てみよう 2 ★算数おもしろ旅行(余①) 3 ★5年生のふくしゅう(余②) 4 達成度評価→習熟度別指導 16	(余③) 12 達成度評価→習熟度別指導 12	・資料のちらばりと代表値 2 17	・確率 6 ・実験して確かめる 3	4	4
授業時数	157 (余裕時限23)	189 (余裕時限15)	187 (余裕時限15)	183 (余裕時限13)	190 (余裕時限17)	181 (余裕時限10)	146	111	142	

平成23年度 大名小・舞鶴小・管子小・舞鶴中学校行事計画 (基本：火曜研修日、金曜日午前中5時間案)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	金	日	水	金	月	木	土	火	木	日	水	木
2	土	月	木	土	火	金	日	水	金	月	木	金
3	日	火	金	日	水	土	月	木	土	火	金	土
4	月	水	土	月	木	火	日	金	日	水	土	日
5	火	木	日	火	金	月	水	土	月	木	日	月
6	水	金	月	水	土	火	木	日	火	金	月	火
7	木	土	火	木	日	水	金	月	水	土	火	水
8	金	日	水	金	月	木	土	火	木	日	水	木
9	土	月	木	土	火	金	日	水	金	月	木	金
10	日	火	金	日	水	土	月	木	土	火	金	土
11	月	水	土	月	木	火	日	金	日	水	土	日
12	火	木	日	火	金	月	水	土	月	木	日	月
13	水	金	月	水	土	火	日	金	火	金	月	火
14	木	土	火	木	日	水	金	月	水	土	火	水
15	金	日	水	金	月	木	土	火	木	日	水	木
16	土	月	木	土	火	金	日	水	金	月	木	金
17	日	火	金	日	水	土	月	木	土	火	金	土
18	月	水	土	月	木	火	日	金	日	水	土	日
19	火	木	日	火	金	月	水	土	月	木	日	月
20	水	金	月	水	土	火	日	金	火	金	月	火
21	木	土	火	木	日	水	金	月	水	土	火	水
22	金	日	水	金	月	木	土	火	木	日	水	木
23	土	月	木	土	火	金	日	水	金	月	木	金
24	日	火	金	日	水	土	月	木	土	火	金	土
25	月	水	土	月	木	火	日	金	日	水	土	日
26	火	木	日	火	金	月	水	土	月	木	日	月
27	水	金	月	水	土	火	日	金	火	金	月	火
28	木	土	火	木	日	水	金	月	水	土	火	水
29	金	日	水	金	月	木	土	火	木	日	水	木
30	土	月	木	土	火	金	日	水	金	月		金
31		火		日	水		月		土	火		土

“新設校の制服について”

平成 26 年 4 月に舞鶴中ブロックに誕生する施設一体型小中連携校は、高い教育力を有する魅力ある公立学校として整備を進めております。
学校教育部会においても、子育て世帯の都心居住につながるような魅力ある学校創りの一環として、制服を検討したいと考えております。

1. 方針決め

選択肢 A. 小学校も中学校も従来どおりでいく。

小学校：私服 中学校：標準服(詰め襟・セーラー服)

B. 小学校は従来どおり私服，中学校は新規に制服を選定する。

C. 小学校も中学校も制服を選定する。

2. 選定の手続き

(1) 制服選定の方針について、舞鶴中校区の保護者の皆様や児童生徒に対し、意向調査を行います。

意向調査の結果、オリジナルの制服をつくることになった場合は、

- (2) みなさまのご意向を基に方針を決定します。
保護者や児童生徒への選定内容に係わるアンケートをとり、制服の生地や、形、色、経費等に関する意見を収集する。
- (3) 制服業者に条件を提示し、数社に制服の試作を依頼する。
- (4) 試作した制服数点を一定期間展示し、意見収集を行う。
- (5) 出展業者に収集した意見を基に試作制服の改良を依頼する。
- (6) 改良した試作制服を再度、展示し、サイズや金額等の紹介を行う。
- (7) 試作制服の中からどの制服を採用するかの地域、保護者アンケートを実施し、試作制服の承認を得る。
- (8) 選定された制服についての詳細の条件を詰め、開校年度前に当該校長から選定された制服制作業者に制作依頼を行う。

同様に、スポーツウエアや上靴、体育館シューズ、カバン、サブバッグ等の選定を行う。

“制服の検討資料”

【本市の現状】

	春・秋・冬（スリーシーズン）	夏服	靴
小学校	私服	私服	自由
中学校	標準服 ・詰め襟・学生服（黒）	標準服 ・長ズボン（黒） ・半袖開襟シャツ or 半袖カッターシャツ(白)	白を基調 華美でない物
男子	 詰め襟制服 価格 16500 円位～32000 円前後	 夏服カッターシャツ＋スワックス価格 7300 円位～10400 円前後	
女子	セーラー服 ※襟ライン本数や色のちがいがい ※リボンの色の違い(赤・白・紺・緑 etc.)	・半袖開襟シャツ(白)丸襟・角襟 ・ノースリーブのジャンパースカート 写真参照 ※H23 年度から新デザイン採用	
	 セーラー服価格 24000 円位～34500 円前後	 夏服新規格 14700 円位～18700 円前後	

＜標準服採用の考え方＞

福岡市内の各中学校では、生徒らしい簡素な身なりをさせるための服装として標準服を採用している。学校は多くの生徒が集団で学習する場であり、落ち着いた学習環境を保つために標準服は役立っている。

標準服の採用は学校長の判断によって、学校独自のものを選ぶことができるが、福岡市では保護者の費用負担が軽減でき、市内の転出入にも対応できるよう、中学校長会が、共通して使える標準服を作成している。

【従来の制服検討における配慮事項】

- ・福岡市立学校の中の一つの学校であることから、他校との際だった格差を持たない配慮が必要であり、生徒の転校転入の際の新たな経済的負担等に配慮する必要がある。
- ・学生として一定程度、派手とならないような色や型とするように配慮する必要がある。
- ・常時着用することから、耐久性があり、汚れが目立たず、家庭で手軽に選択できるなどの配慮が必要である。また価格の均衡性に配慮する必要がある。

◆◆◆ブレザータイプの制服採用の場合◆◆◆

【想定される費用の現状との比較】価格：制服としての初期費用

性別	小学校	価格	中学校			
			3シーズン標準	価格	夏服	価格
男	私服	/	標準服	16500～32000 円 前後	標準服	7300～10400 円 前後
女				24000～34500 円 前後		14700～18700 円 前後
男	私服	/	ブレザータイプ	30000～35000 円 前後	標準服 +独自性	7300～10400 円 前後
女				30000～35000 円 前後		14000～20000 円 前後
男	ブレザー タイプ	上限 35000 円前 後	ブレザータイプ	30000～35000 円 前後	標準服 +独自性	7300～10400 円 前後
女		上限 35000 円前 後		30000～35000 円 前後		14000～20000 円 前後

ブレザー制服のイメージ



【従来標準服とブレザータイプとの各長短】

ブレザータイプ	観点	詰め襟学生服・セーラー服
・福岡市発の事例となり、ニュース性や同時性の強調には効果的。	独自性	・中学生の全国一律の標準服。女子は福岡型。長い歴史で、部分的な工夫はあるが作り込まれた形である。一般的である。
・社会性などを意識した発想の学生服づくりの幅が広がる。	デザイン性	・上記に準じ、色の工夫や、ラインの付加などが可能である。
・体型がかなり強調されてくる。	外見	・体型補正の効果を持っている。
・本市唯一の制服としての意識は高くなるとともに、制服を有する本校に対する“ほこり”を醸成できる。 ◎小学生も制服採用で同一性がある場合、上級生・下級生の関わり意識が高まり、低学年を見なければと言う自覚と責任感が生まれる。	集団への帰属感	・福岡市の公立中学校の一員としての自覚を持つことができる。制服による集団としての共有感を持たらすことができる。
・本市一校のみの制服であり、周囲の関心が高いため、規律に準じる意識が強くなる。	規律	・小学校から中学校への進学の節目づくりが行いやすい。
・小中一貫教育の推進のため採用されている。統一感やアイデンティティを示す役割。1年生から4年生、5年生から9年生で、2タイプの学生服。	採用学年	・福岡市での小学生の制服はない。 ・中学校から、詰め襟学生服、セーラー服を採用している。
・採用する内容によるネクタイ、カッターの裾だし、スポンの位置など指導点の課題が生まれる。	生徒指導上	・学生服のボタンを止める指導等で、秩序的な納めを付けやすい？
・フォーマルとしても着用でき、冠婚葬祭に使える利便性有り。 ・耐久性に富む一着により、長く使用できる。	経済性	・フォーマルとしても着用でき、冠婚葬祭に使える利便性有り。 ・耐久性に富む一着により、長く使用できる。
前述「想定される費用」参照 ※小中共に、ブレザー採用の場合 発達上、3回ほどの買い換えが必要？ a.小学校1～4年間 a.小学校5・6年+中学校3年間 a.中間服としてのベスト等	価格	前述「想定される費用」参照 ・私服（6ヵ年） ・詰め襟学生服（3ヵ年） ・セーラー服（3ヵ年） ・中間服（スラックス・カッター等）

【新制服を中学校のみ導入する場合】

- ◆平成26年度新入学生から新制服を採用 2・3年生は、現行標準服を着用する移行期間を適用する。

【新制服を小中学校に導入する場合】

- ◆小学校6ヵ年、中学校3ヵ年にわけて新制服を設定するのか？
この場合、何年生までを新制服への移行期間とするのか？
中学3年生は、移行期間として現行標準服の着用を認める。